

小学校高学年における教科担任制の充実

中核校	函館市立本通中学校	指定校	函館市立南本通小学校、函館市立東山小学校 函館市立鍛神小学校、函館市立本通小学校
-----	-----------	-----	---

実践前の状況

- ・ 1人1台端末の効果的な活用や学びを子どもに委ねることなど、従来の指導観からの転換を見据えた授業改善が図られていなかった。
- ・ 体育の授業において、運動のまとまりを踏まえた単元の指導計画が示されておらず、主体的・対話的で深い学びのねらいに迫ることができていなかった。

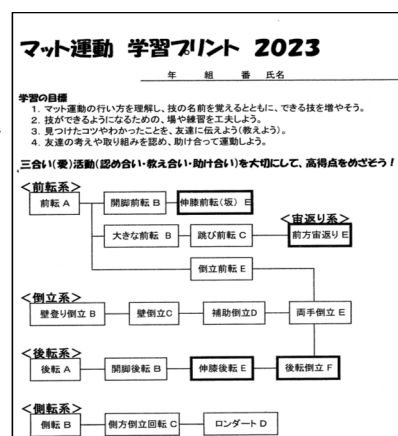
実践の概要

児童に学びの自己調整をさせるための工夫

- ・ 児童の学びの自己調整力の向上を図るため、体育専科指導教員が、運動の系統性を踏まえたワークシートを作成し、学級担任及び児童と共有した。
- ・ 児童が学びの自己調整を効果的に行うために、発達の段階に応じた教材及び教具を準備し、その活用の選択を児童に委ねた。

1人1台端末を効果的に活用した授業改善の工夫

- ・ 児童が自身の体の動きを客観的に把握するため、互いに1人1台端末を活用して運動の様子を撮影し、繰り返し視聴するなど、考察する場面を位置付けた。
- ・ 児童が自己の課題の解決に向け、自分の考えをまとめたり、自分で具体的な解決方法を考えたりする場面において、1人1台端末を効果的に活用した。



【ワークシート】



【1人1台端末を用いた話し合い】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・ 体育専科指導教員の専門性を生かした実践を全教員に普及するため、職員会議や研修会で交流する時間を設定した。

〔専科教員の取組〕

- ・ 児童が自己の課題を主体的に解決するため、体育専科指導教員がGoogleのストリーム機能等の効果的な活用を提示し、児童自身の選択による積極的な活用を促した。

成果()と今後の課題()

学級担任と専科指導教員の打合せのもち方を工夫したことにより、学級担任の時間の余裕が生まれ、業務改善につながった。

- ICTを効果的に活用した授業改善を図ったことにより、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童質問紙調査において「運動が好き」と肯定的な回答をした児童の割合が前年度を上回った。

〔全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童質問紙調査「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。」(鍛神小学校 R4: 93% R5: 95%、東山小学校 R4: 87% R5: 89%、南本通小学校 R4: 88% R5: 100%)〕

児童によって1人1台端末の操作技術に差が見られるため、学習活動や一人一人の実態に応じた支援の工夫が必要である。